

市長の学歴及び入札執行停止に係る事務調査 特別委員会要点記録

○開会日時 令和7年7月29日（火） 午後1時30分

○場 所 伊東市役所第2委員会室

○出席委員 9名

1 番	佐 藤 周 君	2 番	村 上 祥 平 君
3 番	竹 本 力 哉 君	4 番	井 戸 清 司 君
5 番	大 川 勝 弘 君	6 番	杉 本 一 彦 君
7 番	四 宮 和 彦 君	8 番	犬 飼 このり 君
9 番	重 岡 秀 子 君		

○出席議員 9名

議 長	中 島 弘 道 君	副議長	青 木 敬 博 君
議 員	虫 明 弘 雄 君	議 員	河 島 紀美恵 君
〃	長 沢 正 君	〃	篠 原 峰 子 君
〃	杉 本 憲 也 君	〃	鈴 木 絢 子 君
〃	宮 崎 雅 薫 君		

○証 人 1名

○ ○ ○ ○ 君

○出席議会事務局職員 4名

局 長	富 岡 勝	局長補佐	里 見 和 彦
係 長	野 田 昌 伸	主 査	山 田 拓 己

○会議に付した事件

- 1 市長の学歴に係る事務に関する事項について
 - (1) 証人出頭請求について
 - (2) 証人尋問について
- 2 その他
 - (1) 次回開催日について
 - (2) その他

○会議の経過概要

○委員長（井戸清司君）開会する。

○委員長（井戸清司君）日程第１、市長の学歴に係る事務に関する事項についてを議題とする。

まず、(1) 証人出頭請求についてである。前回の本委員会において、田久保眞紀氏の学歴に関する事実について了知している方を、証人として出頭請求し、証言を求めているかどうかとの意見があったので、本件を議題とする。

資料配付のため、暫時休憩する。

午後 １時３０分休憩

午後 １時３１分再開

○委員長（井戸清司君）休憩前に引き続き、会議を開く。

この際、お諮りする。市長の学歴に係る事務について調査をするため、手元に配付した資料に記載のとおり、証人に出頭を求めることとしたいと思う。また、証言を求める事項、出頭日時及び出頭場所については、資料のとおり、それぞれ、「田久保眞紀氏の学歴に関すること」、「証人出頭請求書を受け取り次第直ちに、伊東市役所第２委員会室」としたいと思う。これに異議ないか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（井戸清司君）異議なしと認め、さよう決定した。

次に、(2) 証人尋問についてである。報道関係者各位をはじめとした傍聴の皆様にも申し上げる。本日、出頭いただく証人については、公人ではないことから、本人の希望により、最大限プライバシーを保護した上で証言を頂くこととなっている。この後の証人尋問において、証人のプライバシーが保護された状態にあつては、報道取材のための録音、映像の撮影はともに許可されているが、証人の入退室や宣誓時などをはじめとした、プライバシーへの配慮が必要な際にあつては、傍聴及び録音、映像の撮影をはじめとした取材自体をお控えいただきたいと思う。すなわち、証人の入室から宣誓を終えるまでの間は、報道関係者及び傍聴人においては、一旦委員会室の外に退室いただき、証人尋問の準備が整った後、再度入室をいただく形で対応させていただく。委員長及び事務局職員において案内をするので、これに従うよう、よろしく願います。また、本委員会の開会中、閉会後を問わず、証人の個人情報漏えいすること、肖像権を侵害すること、非公開とした証人の特定を図る報道をすることは、個人の法益保護の観点から、違法行為に該当するおそれがあるため、お控え願う。さらに、証人に対する個別の取材については、証人の心理的負担の軽減や平穏を保つためにも、厳に慎んでいただくようお願いする。もしも、これらの行為が確認できた場合、本日の委員会運営においては、一切の報道関係者の取材を控えていただくこととし、委員長の命令において退場いただくとともに、当

該行為を行った関係者については、今後の本委員会の報道取材自体を禁止とする取扱いとさせていただきます。出頭いただく証人に、何ら不利益が生じることのないよう、最大限の配慮を図る目的であるので、何とぞ、趣旨を理解の上、協力を賜わるよう、よろしくお願いします。また、委員各位、議員各位においても、証人尋問の際に、証人の個人が特定される可能性のある発言は控えることとし、本委員会において、報道撮影に一定の制限を設けたことについて、十分に理解いただいた上で、閉会後においても、第三者に漏えいすることのないよう、改めて注意申し上げます。

それでは、証人出頭手続及び資料配付をする。報道関係者においては、退室をお願いする。
暫時休憩する。

午後 1 時 3 5 分休憩

午後 1 時 4 1 分再開

○委員長（井戸清司君）休憩前に引き続き、会議を開く。

それでは、証人の入室を許可する。

〔証人 入室〕

○委員長（井戸清司君）証人に一言挨拶を申し上げます。本日は、お忙しい中にもかかわらず、本委員会に出席いただき、感謝申し上げます。本委員会を代表してお礼申し上げるとともに、調査のために協力を賜わるよう、よろしくお願いします。それでは、証言を求める前に、証人に申し上げます。証人の尋問については、地方自治法第100条第1項に規定があり、また、これに基づいて民事訴訟法の証人尋問に関する規定が準用されることになっている。これにより、証人は、原則として証言を拒むことはできないが、次に申し上げます場合には、これを拒むことができることになっている。すなわち、証言が証人、または、証人の配偶者、四親等内の血族、三親等内の姻族の關係にあり、または、あつた者、後見人と被後見人の關係を有する者が刑事訴追を受け、または、有罪判決を受けるおそれのある事項に関するとき、または、これらの者の名譽を害すべき事項に関するとき、及び、医師、歯科医師、薬剤師、医薬品販売業者、助産師、弁護士、弁理士、弁護人、公証人、宗教、祈禱もしくは祭祀の職にある者、または、これらの職にあつた者が、その職務上知り得た事実で黙秘すべきものについて尋問を受けるとき、及び、技術、または、職業の秘密に関する事項について尋問を受けるとき、以上の場合には、証人は、証言を拒むことができる。これらに該当するときは、その旨について申し出いただくようお願いする。それ以外には、証言を拒むことはできない。もし、これらの正当な理由がなく証言を拒んだときは、6か月以下の拘禁、または、10万円以下の罰金に処せられることになっている。さらに、証人に証言を求める場合には、宣誓をさせなければならないことになっている。

この宣誓についても、次の場合は、これを拒むことができることになっている。すなわち、証人、または、証人の配偶者、四親等内の血族、三親等内の姻族の關係にあり、または、あつた者、後見人と被後見人の關係にある者に著しい利害關係がある事項について尋問を受けるときには、宣誓を拒むことができる。それ以外には、宣誓を拒むことはできない。なお、宣誓を行った証人が虚偽の陳述をしたときは、3か月以上5年以下の拘禁に処せられることになっている。以上のことを承知おきいただくよう、願います。

それでは、法律の定めるところによって、証人に宣誓を求める。宣誓は、本委員会室に参集いただいている全ての方において、起立にて行うこととされているため、あらかじめ協力をお願いする。

一同、起立願う。

〔全員 起立〕

○委員長（井戸清司君）宣誓書の朗読をお願いする。

○証人（〇〇〇〇君）宣誓書。私は、良心に従って真実を述べ、何事も隠さず、また何事も付け加えないことを誓う。令和7年7月29日、〇〇〇〇。

○委員長（井戸清司君）一同、着席願う。

宣誓書に署名、押印をお願いする。

〔証人 署名、押印〕

○委員長（井戸清司君）報道関係者入室のため、暫時休憩する。

午後 1時46分休憩

午後 1時48分再開

○委員長（井戸清司君）休憩前に引き続き、会議を開く。

証人に申し上げる。これから証言を求めることになるが、証言は、証言を求められた範囲を超えないこと、また、発言の際には、その都度、委員長の許可を得てされるようお願いする。

委員の皆様、あらかじめ申し上げる。証人への尋問に際しては、追及調の発言をするなど、礼を失することのないよう心がけていただくとともに、個人情報に関する事項については、発言を控えることとする。また、個人情報保護の観点から、証人のことを呼ぶ際には、氏名ではなく証人と呼ぶこととするので、配慮をいただくようお願いする。

それでは、これより証人から証言をしていただく。初めに、私委員長において、人定尋問を行いたいと思う。証人にお伺いする。氏名、住所、生年月日、職業について、事前に記入いただいた証人確認事項記入票のとおり間違いはないか。

○証人（〇〇〇〇君）間違いはない。

○委員長（井戸清司君）それでは、人定尋問は終了したので、引き続き、委員の皆様から証人尋問を行っていただきたいと思います。発言を許す。

○7番（四宮和彦君）皆さんご存じのように全国ニュースにもなっていて、毎日のようにテレビやネットで田久保市長の話題が取り上げられている中、私なども市の内外問わず会う人会う人にこの話題を振られるし、メールや電話も頻繁に来る。この騒動によって市内では陰謀論のようなものもささやかれたりして、市民の分断を図ろうとするかのように愉快犯的なものも湧いて出てきている始末だから、こうした状況下で証人となることについては、相当な覚悟と勇気が必要であったと想像できるわけである。そこで、まず具体的な証言、質問に入る前に本委員会からの求めに応じ証言しようという判断になったことについて、一言経緯についていただきたいと思います。よろしいか。

○証人（〇〇〇〇君）私が今回証人になろうと思った理由は、田久保市長が個人的な理由で刑事告発をされたということで、それを理由に本委員会への資料提出や出席を拒否されていること、それと、記者会見で行政のトップとして広報の発行をはじめとする全ての市政に責任を負わないこと、これに大きな疑問を持っている。本委員会が検証する行政手続は、私たち市民の信頼を支えるものであり、不正や恣意的な運用を防ぐ大切な防波堤だと思っている。その透明性こそが地方自治の根幹を支えるものと考えている。その行政手続に瑕疵がなかったのかを自ら率先して協力する必要が市長にはあると私は考えている。このようなことを踏まえ証人になる決断をした。

○7番（四宮和彦君）それでは、順次、田久保市長の学歴に関してご存じのことを伺っていきたいと思うが、まず初めに市長の学歴に関しての話というのをいつぐらいの時期に聞かれたのかということと併せて、どのような内容でその話を聞いたのかということについてお答えいただきたい。

○証人（〇〇〇〇君）いつ頃に聞いたかという話は、私が市民運動に携わっていた2017年から2018年の間に2回くらい聞いている。そういった経緯でというところだが、最初は彼女が経営しているカフェが閉まっているときだが、市民運動に関わっている中心的な存在が集まって懇親会のようなものをしていたときだったと思うが、その際にあちらこちらでそれぞれの話をしている中で、私たちのグループのところで彼女がアルバイトに夢中になって大学には行かなくなったという発言をしたことがあった。そのほか、市民運動中はものすごく多忙を極めて、私と田久保さんとで電話で連絡を取ることがとてもあったが、電話をするのが夜の11時くらい、要は家族が寝静まってから連絡することがあり、話をする中で、その後だんだん緊張をほぐすために、お互いの個人的な話を、数回だが明け方くらいまで話し続けたことがあった。その中で、バイク便とかイベントの会社でアルバイトをして働いていく中で、面白くて熱中し

ていったということと、ただ大学の友達とは仲が良かったので、卒業式には出ていないのに、卒業はしていないけれども、終わってからの飲み会には朝まで参加したというような発言を聞いた。

○7番（四宮和彦君）そうすると、電話だとかという中でそういう話も出てきたということだろうと思うのだが、だた、ちょっと疑問なのが、学歴の話って、そんなに友達関係だったとしても本人から積極的に話すような中身の話でもないのかなという気もするわけである。どういう話の流れで学歴の話になったかとか覚えているか。

○証人（〇〇〇〇君）私は、田久保さんより2つ年上で、学生時代の時代背景が近いところがあって、ちょうどバブル期の極めて後半だが、私はその当時短大に通っていた。深夜番組などで女子大生がもてはやされているような時代だったので、浮かれた時代だった思い出話を話したりする中で、私の学生時代、短大に通っている間にやはりアルバイトもしたし、サークル活動もしていたので、その中で単位を取るのが大変だったとか、提出物を期日に出せなくて苦慮したことがあったとかという話をする中で、お互いのそういう話の中から、学歴というか、卒業の経緯とか、どんな学生時代を送っていたかという話をする中でそういう話を聞いた。

○7番（四宮和彦君）ちなみに、そうすると、本人がバイトばかりしていて、大学は卒業をしないで終わってしまっているという話だったかと思うが、それを聞かされたときに証人はどのように思われたか。何か思うところはあったか。

○証人（〇〇〇〇君）先ほども申したとおり、浮かれた時代だったので、ありそうな話だなというふうに思った。

○7番（四宮和彦君）市長の学歴について知ることとなった経緯についてはおおよそ分かった。今の話にちょっと移りたいのだが、実際のところ選挙のときに、マスコミ報道で調査票だとかに記入されて公表されたものとしてだが、東洋大学法学部卒業というふうになっていたということ、これは証人が過去に聞いた話とは食い違うことになるわけである。それからさらに、その後選挙が終わってから市長就任後に、広報いとう7月号にも同様の学歴が掲載されるといった事態になるわけだが、それらのことを知ることとなってどのように思われたか。話が違うのではないかということになるのではないかなという気がするわけだが、その辺はいかがか。

○証人（〇〇〇〇君）私は先ほど申したとおり、田久保さんから大学を卒業していないという認識でずっときていたので、それを見る前に市議選に2回、田久保さんは立候補されていて、選挙活動の前の、A4三つ折りのそれぞれ皆さん候補者の名前が書かれていて、色々なところに置いて自分の活動をお知らせしたりするような資料がある。1回目は、私はもうそのときには市民運動から外れていたのだが、私の家のポストにわざわざ投函してあった。そのときに、学歴を見たら東洋大学というふうに書かれていたと記憶している。2回目の市議選のとき、この

ときは、私が自分の住む地域の自治会の役員をしていて、それこそ何名もの似たような資料が、自治会館に集まってくるので、皆さんのざっと中を拝見する中で、田久保さんののも確認した。そのときに、私の記憶が間違っていなければ、2回目のものには、東洋大学卒業という2文字が増えていたような記憶が、私はそのときに、はっとしたので、記憶間違いではないかとは思っているのだが、ものがないので確認のしようがないが、ああ書いたと思った。それがあったので、選挙活動の中で報道機関に出した最終学歴に卒業と付けたこと、広報誌に東洋大学卒業と書いたということが、特段新しいことではなく、嘘を重ねて、それが彼女の中のスタンダードになってしまったんだなと思った。

○7番（四宮和彦君）私からはこれで最後にしたいと思うのだが、今回、こういった田久保市長の学歴詐称をめぐる問題、全国的な騒ぎにもなるくらいなのだが、何とかこれは私たちが収めていかなければいけないなど、委員も考えているわけであるけれども、その件で、こういう質問をするのもどうかとは思っているのだが、今起きている学歴詐称の問題であるとか、我々、今本委員会が行っている調査であるとかについて、証人としてここに来られているわけだから、せっかくの機会なので、その辺について証人なりの意見等があれば、最後に一言言っていただければと思うのだが、いかがか。

○証人（〇〇〇〇君）私はここに移住して10年になる。伊東で子育てしたことを、家族が幸せに暮らしていることをとてもよかったと、ここで暮らしていることがよかったと、今でも確信している。ただ、移住して市長職に就かれた方々全員が行政手続を軽視して、一人は刑事罰を受けた、一人は政治倫理審査会を開かせるようなことをした、そして今回本委員会が開催されるようになってしまった。このことはとても市民としては、悲しいというか、複雑な思いである。先ほども申したが、行政手続は不正や恣意的運用を防ぐための装置であるから、最大限に効果が発揮されるように確認されながら進めていってほしいと思う。

○5番（大川勝弘君）証人に2点だけお聞きたい。四宮委員が基本的なことをお聞きしたと思うが、まず活動されていたグループの中で、自身だけではなくてほかに聞かれた方もいるのかというのが1点と、あともう1点、田久保市長の表現としては、自身で自分は除籍になったとか中退になったとか、卒業していないとか、こういった表現をされていたのか記憶にあれば伺いたい。

○証人（〇〇〇〇君）同じことを聞いた人がいるかという点だが、先ほど申したとおり、カフェで行われた懇親会の中でその話題にはなっているので、テーブルがいくつかあったが、そのテーブルを囲んでいた人は耳には入っているとは思っている。ただ、人により何を記憶するか、何を大事に思うかというのはそれぞれ違うので、覚えているかいないかというのは、私は分からない。あと、表現だが、除籍という言葉、中退という言葉は聞いていない。その当時していたアルバ

イトなり仕事に熱中してしまっていて、学校に行かなくなったこと、あと、電話の際に、卒業はしていないけれども、その後の飲み会には出たことを言っていたということを記憶している。

○8番（犬飼このり君）田久保市長は自分の学歴について、私たちの部屋で話したときには、学歴そのものではなくて、今回の市長選に出るときに当たり、自分では書いてないみたいな言い方をさんざんしていた。私が公表している学歴、経歴は、どういうふうに示しているかと記者に言っていたことがあった。ここで、私はもう何か隠しているのかな、まずいのかな、ということを感じていたんだが、証人は、ほかの色々な方がいる中で、こういう話をしたということも、本人は多分覚えていると思うが、この中で、東洋大学という言葉を使ったのか、東洋大学そして法学部という言葉聞いたことがあるかということは覚えているか。

○証人（〇〇〇〇君）私自体が市民運動をする中で、法律というものがとても重要な役割を占めるというふうに思っていたので、東洋大学で法学部なんだというふうに認識して、すごく戦力になる人だなというふうに頼っていたところがあるので、法学部なんだとか、友達の中に弁護士がいたりとかということもあったので、どの段階で聞いたかは覚えていないが、東洋大学の法学部にいたことのある人だという認識はあった。

○8番（犬飼このり君）私も市民運動の中で法律についてすごく必要だったんじゃないかなと思って伺ったところである。ほかの方も、恐らく法律を頼りにして信頼していた部分があったと思うが、証人も同じように信頼されていたと今のお話では伺える。法律の部分に関しては、その後も運動はともかくとして、こういった今の経緯を見て法律を学んでいた人というふうに思えるか、伺う。

○証人（〇〇〇〇君）法律を学んだ人、と言われても、会話の中で行かなかったという話を聞いているので、学んでいないであろうというふうには思っているが、ただ受験をして合格をできる知識レベルがあるという、知識レベルというか知能があるということは事実なので、そこで調べたり何かしたりする能力と、あと彼女の振る舞いであるとかそういった中で、自負しているようなところがあるから、そこはどうなんだろうという確認をしたり、そういうところで頼っていたことは何度かあると思う。

○2番（村上祥平君）市議選のときに、2回家に投函されていた、また自治会に置かれたものを見たという部分について、大学は卒業していないと認識は持っていたけど、こういったものを見て、その後田久保さんと、そういったことで話したことはあったか。

○証人（〇〇〇〇君）私が市民運動を離れることになって以降、彼女とは交流をしていないので、確認はしていない。

○9番（重岡秀子君）田久保市長が本人の口から、本人が卒業していないと言ったというようなニュースは今日証人からお聞きしたが、以前に2つこういうニュースを耳にしている。1つ目

は7月の初めに、伊豆新聞でやはり同じような仲間たちの中でそういう話が出て、確かに学校へ行っていないということを本人が言っていたという記事があった。そのときにも、伊豆新聞の方に聞いたが、二、三人それを裏づけるというか、一人ではなくてほかにもいたというような話も聞いた。もう1つは、多分インターネットのニュースだったと思うが、今証人が話した、カフェで大勢何人かいて、その中で今の証人の言葉と似ているのは学歴の話が出て東洋大学法学部に行ったということを彼女が言って、それでは法律の知識、法律得意なのねって言ったときに、先ほど証人が言ったように、でもバイトや遊んでいたからそのときは学校に行かなかった、どういう言い方をしたか記憶にないのだが、それで学校に行かなかったみたいな話をしていたっていうのも、ちょうど今の話と重なるようなことも、ほかのニュースで聞いたことがあり、そこでちょっと伺うが、証人はこの問題で、今日証言をする前にマスコミの取材を受けたことがあるか。話が重なることがあるのだが。

○証人（〇〇〇〇君）実は、この問題が起きてから、私の携帯や自宅を訪ねてきた記者が数名来ている。その際には、私はここまで市長がこの委員会をないがしろにすることをしていなかったもので、記者に同じように言った言葉がある。「彼女は55歳で、この問題が終わってからもこのまちで一緒に暮らしていく。一緒に運動をした仲間が、こんなことを話すまちに暮らしたいと思うか」と、そうやって断っていた。なので、取材は一切お受けしていない。

○9番（重岡秀子君）分かった。もう一点だけお伺いしたいと思う。いずれのニュースも先ほど証人が言ったのを、自分一人、一対一で電話で。もう一回は周りに、同じ人たちがいたけど聞いていたかどうか分からないというお話だったから、このことについて、例えば陰にいた人たちに、このことについて確かめるような会話はあったか。その周りにいた人たちにこんな話があったとか、なかったみたいな話はあるか。

○証人（〇〇〇〇君）私がこの情報を同じように共有しているというか認識している人は、確信を持てるのは私以外に2人いる。

○9番（重岡秀子君）その2人と情報を、昔のことだけどこんなことなかったということを交流した覚えはあるか。

○証人（〇〇〇〇君）最近は、もう、それこそ運動を離れてからはないし、一人はこの問題になってから、その話は、お互いの家に記者が来ているということで、私は断っているというようなことで連絡をしたことはある。

○委員長（井戸清司君）ほかに、証人尋問はあるか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（井戸清司君）これをもって証人尋問を終結する。

証人に申し上げる。本日は、お忙しい中を本委員会に出席いただき心から感謝する。退席い

ただくために準備をするので、そのままお待ち願う。

証人が退席する。報道関係者においては退室を願う。

暫時休憩する。

午後 2時14分休憩

午後 2時15分再開

○委員長（井戸清司君）休憩前に引き続き、会議を開く。

証人の退席をお願いする。

〔証人 退席〕

○委員長（井戸清司君）報道関係者及び傍聴人の入室のため、暫時休憩する。

午後 2時17分休憩

午後 2時18分再開

○委員長（井戸清司君）休憩前に引き続き、会議を開く。

報道関係者各位においては、委員会運営に協力をいただき、お礼を申し上げる。

以上で、日程第1、市長の学歴に係る事務に関する事項についてを終了する。

○委員長（井戸清司君）日程第2、その他を議題とする。

まず、(1) 次回開催日についてである。次回開催日についてだが、まずは、田久保眞紀氏の出頭拒否に対し、正当な理由があったのかどうかを法的見地からも精査するべく、委員長において市顧問弁護士との相談を行うことで、委員会での判断材料等を提示できる状態にすることが先決であると考えている。また、さきの記録提出の拒否については、一定の結論が出ているため、今後の方針としては、直ちに正当とは認められないことを同氏に示す中、再度の記録提出を促すことで、調査に必要な重要書類の提出を求めることとし、それでも提出がされなかった場合には、告発の検討を行うという順にて進めていくことを考えている。よって、本2件については、現状、正当な理由がないことを示した上で、再度の提出請求、及び、出頭要求をすすめる方向性で進行し、なおも拒否が継続するのであれば、告発の検討に移るということで、今後の展開として考えている。しかしながら、これとは別に、東洋大学に記録提出を求めた件について、その回答の状況によっては、さきの2件と同時、あるいは、いずれかを先行して調査を進めていく必要があると考えることから、本日においては、次回開催日の決定は行わず、調査の結果を踏まえた上での開催の運びとなるよう、委員長において日程調整を図っていききたいと、このように考えている。よって、以上の点を踏まえ、次回開催日については、委員長一任にて

日程調整を図ることとしたいと思うが、これに異議ないか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（井戸清司君）異議なしと認め、さよう決定した。

次に、(2) その他について、委員から何かあれば質疑、意見を伺う。発言を許す。

○7番（四宮和彦君）昨日の記者会見で本委員会が請求してこなかったから出さなかった、結局除籍になっている人の在籍証明書なんでもらったって何の意味もないわけである。出すと言っているなら卒業証書と併せて在籍証明書、在籍証明書は成績証明書とセットになってはじめて意味がある。何で4年で除籍になったのかという話になるわけである。その辺のところを踏まえて、併せて在籍証明書が出せるのだったら、成績証明書も出してもらおうということで、資料を追加して提出要求をしたらいかがか。

○委員長（井戸清司君）暫時休憩する。

午後 2時21分休憩

午後 2時22分再開

○委員長（井戸清司君）休憩前に引き続き、会議を開く。

ただいま、四宮委員から在籍証明書、また成績証明書も併せて本人に提出を求めるということで話があったので、この2点を採用したいと思う。

○6番（杉本一彦君）今日、証人から非常に重要な証言が頂けたと思うが、先ほど委員長が再度証人尋問を求めていくという話があったが、今日ここで証人から頂いた証言の内容も本人に伝える中で、反論というか、弁明というかそういったものを併せて求めて、出頭を求めるという形になるのか。

○事務局長（富岡 勝君）本人の主張について、通るものではないということの説明を付記した上で、改めて資料の請求であったり、出頭の要求をしていくとなっている。

○9番（重岡秀子君）公職選挙法違反で訴えたのが、警察で今受理されたということになっている。ということになると、卒業証書も提出というのに、何か条件を付けた方がいいのではないか。警察との兼ね合いで、本委員会を優先して、例えばここへ提出してここがずっとそれを所持するのかどうかということで、その辺がまた同じ理由で出せないということにはならないか。それをこちらで提出された後どうするのかということ、その場でコピーを取るなり何なり返すことをしてもいいから出せと言うのか。警察からの求めがあったときに、ここへ提出してしまったときにそれができないという状況について、何か条件を付けた方が、こういうことでもいいから提出しろというようなことはどうか。

○委員長（井戸清司君）委員長の考えとしては、基本的には我々は本物が手に入る状況にあるの

で、その年の卒業証書というものの本物が手に入る状況にあるので、逆に言えば、ここで見させていただくだけでも構わないし、それか、写真またはコピーの提出でも構わない。であるので、そこら辺は提出の条件に加えてもいいかと思う。

ほかに、質疑、意見はあるか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（井戸清司君）質疑、意見なしと認める。

それでは、ただいま、四宮委員、重岡委員から出された意見は今後に反映させていきたいと思う。これをもって、質疑、意見を終結する。

以上で、日程第２、その他を終了する。

○委員長（井戸清司君）以上で日程全部を終了した。

これにて閉会する。

○閉会日時 令和７年７月２９日（火）午後２時２６分（会議時間４４分）

以上の記録を認める。

令和７年７月２９日

委員長 井 戸 清 司